
やまがた公益大賞グランプリ

受賞団体の活動

山形県立置賜農業高等学校 地産地消研究会 (川西町)

特定非営利活動法人子育てネットワークバルボンさん (新庄市)

特定非営利活動法人W i t h 優 (米沢市)

特定非営利活動法人東北青少年自立援助センター (上山市)

特定非営利活動法人いぶき (酒田市)

ボランティアサークル日曜奉仕団 (寒河江市)

認定NPO法人ひらた里山の会 (酒田市)

グループ農夫の会 (山形市)

山形県立上山明新館高等学校 農業クラブ (上山市)

あいらぶ末広 楽市楽茶 (山形市)

※受賞年度順

《平成19年度グランプリ受賞団体》

山形県立置賜農業高等学校 地産地消研究会（川西町）

駅・街活性化で育んだ高校生の公益活動

（活動期間：平成19年4月～）

■ 活動の背景・目的

JR米坂線の羽前小松駅は、1982年から全国初の町民駅として有人のままJR東日本の簡易委託駅を続けてきました。しかし、乗車券販売収入の減少等により町の助成金額が増大し、見直案が浮上したことから、「このままでは、町民駅の無人化や営業時間の短縮につながり、交通弱者である高校生や老人に悪影響が出てしまう。」と考えた本校の生徒たちがみずから活動を始めました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

JR羽前小松駅の無人駅化を防ぐため、生徒たちは駅前でアンテナショップを開設し、駅や米坂線の利活用を町民や利用者に訴え始めました。また、駅はコミュニティの拠点としても重要な意味を持つと考え、「駅C a f e」や「駅なか歌声喫茶」など、地域住民と連携したイベントを企画運営し、駅再生や地域活性化に取り組みました。

■ 現在の活動及び課題

この活動は後輩達に引き継がれ、団体名は「チームAgriction」と変更されたものの、活動は現在も続き、羽前小松駅は高校生と地域住民が一緒に設立したNPO法人が、有人のまま運営を継続しています。

また、駅を拠点としたまちづくりも進み、新駅舎の完成、駅前通りのチャレンジショップ開店、交流プラザの開設が実現しました。さらに、首都圏住民との交流による来訪者の増加や、都内アンテナショップ開設による地元産品販売など、高校生と住民が一体となった地域再生の道を歩んでいます。課題は、活動資金の調達と地学連携にあると言えます。

■ 今後の活動の展望

生徒たちの活動は、住民と一体化した地域おこしとなって成果を上げました。平成27年度あしたのまち・くらしづくり活動賞では、高校生と住民の活動をまとめた内容が評価され、申請者のNPO法人えき・まちネットこまつが内閣総理大臣賞を受賞しました。今後は、地域と学校が連携する「地学連携協定」を結びながら、魅力ある農村地域や農業高校の実現に向け、首都圏も含めた活動を展開します。



【新駅舎の竣工式】



【チャレンジショップの開店】

〒999-0121

東置賜郡川西町大字上小松 3723

山形県立置賜農業高等学校 チーム Agriction

TEL : 0238-42-2101 FAX : 0238-42-2103

E-mail : eki-mn-7@ms5.omn.ne.jp

(連携団体 NPO 法人えき・まちネットこまつアドレス)

《平成20年度グランプリ受賞団体》

特定非営利活動法人子育てネットワークバルボンさん（新庄市）

読み聞かせを柱にした子育て支援と生涯学習社会の充実

（活動期間：平成14年4月～平成23年3月）

■ 活動の背景・目的

読み聞かせや生涯学習の推進が、人づくり・まちづくりの基礎になることを再認識した有志と共に、平成14年4月、任意団体として出発し、同年12月にNPO法人を設立しました。

読み聞かせ実践活動を柱とし、赤ちゃんから青年期を視野に子育て支援や学びあいを行い関係機関と連携を図りながら、生涯学習社会の充実と新たな読書環境向上に努めることを目的としました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

研修を通じた人材育成や講演会等による読書推進の啓蒙・啓発活動、「最上地区読み聞かせ連絡協議会」でのネットワークづくり等を通して、新庄・最上地域における読書推進の中間支援組織として活動しました。更に「新庄市学校図書館支援センター推進事業」を実施し、当団体・図書館ボランティア・司書の三者で設立した「市民ネットワーク図書館サポート・とらいあ」での市立図書館一部業務委託を行いました。

■ 現在の活動

「市民ネットワーク図書館サポート・とらいあ」は、平成22年に法人格を取得し、「一般社団法人とらいあ」となりました。それを機に、平成23年3月にNPO法人子育てネットワークバルボンさんを発展的に解散しました。

現在、「とらいあ」は新庄市立図書館の指定管理事業、新庄市学校図書館支援関係事業等を実施しております。「図書館がまちをつくる！読み聞かせからはじまる人づくり・まちづくり」をテーマに、子どもや市民のための読書や生涯学習推進、研修等による人材育成、講師派遣のほか、k i t o k i t oマルシェや100円商店街での事業も行っています。

今後とも、行政や学校、地域等と連携・協働し、読書や生涯学習、図書館の新しい可能性を追求していきます。



【まちなか絵本・紙芝居コーナー（百縁商店街）】



【武田美穂さんの絵本ライブ i n 新庄
（最上地域みんなで読育推進事業）】

〒996-0081 山形県新庄市中道町16番地1

代表理事 本澤 昌紀、副代表理事 大場 千賀子、副代表理事 高山 恵美子、常務理事 高橋 一枝

連絡先(新庄市立図書館) TEL: 0233-22-2189 FAX: 0233-23-6183

(現在は「一般社団法人とらいあ」として活動中)

《平成21年度グランプリ受賞団体》 特定非営利活動法人W i t h 優（米沢市）

支え合い、補い合える地域づくりへの挑戦

（活動期間：平成19年5月～）

■ 活動の背景・目的

この活動は、代表の白石が社会に出てから感じた学校教育と現実の社会のギャップ、みずからの生き方や社会人として社会から求められるあり方についての葛藤、そして友人の自死等の経験を踏まえ、また学校での勤務経験を経て子どもたちが直面する課題と向き合う中で、どんな子どもも大人も、地域に自分を認めてくれる居場所があることを見出し、それぞれが出番を作れる地域を築いていくことを目的に始めました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

学校に行けない・行かない事を選択した子どもたちの学びと生活の場であるフリースクールを月曜から金曜日まで毎日運営しました。また、毎週土曜日は子ども達の就労体験の場として、地域の方も日常を離れて「ほっ」と出来るカフェレストランを運営しました。さらに、学校に通っている子どもたちの体験活動の場として野外教室を毎月実施しました。

■ 現在の活動及び課題

毎日開所し、学習支援も行うフリースクールは県内唯一であり、県内全域から生徒の登録を受け付けています。

また、現在最も規模が大きい事業は若者の就労支援事業で、実人数で100名以上が利用しています。

さらに、地域で子ども・若者を支え、互いに繋がれる場として、米沢市内で会員制の居酒屋と駄菓子屋を地域の方からの寄付によりオープンし、運営しています。

現在の課題は、不登校・引きこもり支援に関する継続した補助金等はないものの専門的な支援を求められることから、スタッフが職業として支援を行うための保障と人材の育成です。

■ 今後の活動の展望

運営面で継続していくことの難しさを抱えているフリースクールですが、子どもたちを継続して支えていくための地域事業所ネットワークの構築に現在挑戦しており、行政になるべく頼らずに運営していくための取り組みに挑戦しています。

また、働きたい若者の中間就労の場づくりや雇用の創出等に地域の事業所と連携して挑戦し、これまで以上に地域を巻き込み子ども・若者が地域で生き生きと活動できる地域社会を目指していきます。



【若者の就職を会員の皆さんとお祝い

@会員制居酒屋結】



【駄菓子で繋がる地域の輪 @駄菓子屋あっあい】

〒992-0075

米沢市赤芝町字川添 1884 番地

代表 白石 祥和

TEL : 0238-33-9137

HP アドレス : <http://www.with-yu.net>

《平成22年度グランプリ受賞団体》

特定非営利活動法人東北青少年自立援助センター（上山市）

不登校、引きこもり等青少年の社会的自立への支援活動

（活動期間：昭和61年4月～）

■ 活動の背景・目的

昭和50年代から不登校、非行など青少年の問題が全国各地で社会問題化し、不登校は長期化し引きこもりへ、非行は犯罪や反社会勢力との結びつきを強め、一人の若者とその家族の将来を閉ざす看過できない状況にありました。都内で共に教職にあった夫婦が、この問題の根深さと学校現場での対応に限界を感じ、自然豊かな蔵王の地での共同生活による自立支援にその打開策を求めて、この活動を始めました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

不登校、引きこもり等により社会的自立が困難になっている青少年に対して、蔵王の恵まれた大自然の中での集団生活、共同生活を通じ、社会的自立への援助を行うとともに、保護者への子育てに関する相談・研修事業を行い、不登校や引きこもり等の状況から脱却する機会を提供しています。

■ 現在の活動及び課題

現在に至るまで基本的な活動内容に変わりはありませんが、対象者の高年齢化や社会性の著しい低下など、時代背景の変遷とともに、当センターへやってくる若者の質も変わり続けており、それらの変化に柔軟に対応すべき部分と、決して変えてはならない部分とを見極めながら活動を継続しています。

また学校や医療機関、福祉施設、サポステ等と違い、公的な資金援助が皆無の中での活動は財政的に極めて厳しいことから、スタッフの給与等の改善や財政の安定が喫緊の課題です。

■ 今後の活動の展望

活動の内容自体が、子育てや教育に準ずるものであり、特に目新しい事を始めるものではないと考えています。従って、基本的にはこれまで33年間の経験と実績を基に、発達障害等への知識を深めつつさらにその精度を上げ、より確実に生きる力を身に付け社会の中で独り立ち出来る若者に育つよう真摯に向き合う事を継続します。

財政的な課題に対しては、短期的には助成金の活用等、中長期的には国や地方行政へ補助制度創設の働きかけを強化します。



【秋期保護者会にて、親子で稲刈り】



【樹氷をバックに。身体を動かす事で心も元気】

〒999-3114

上山市永野字蔵王山2561-1

理事長 岩川 耕治

TEL : 023-679-4005

HP アドレス : <http://www.tohoku-ysc.org/>

《平成23年度グランプリ受賞団体》

特定非営利活動法人いぶき（酒田市）

生きがいと絆を育む地域ささえあい事業

（活動期間：平成20年1月～）

■ 活動の背景・目的

少子高齢化、個人の価値観の多様化及び地域社会の変化により、世代にかかわらず社会的孤立が深刻な課題になっています。このような背景のもと、当法人では子どもたちが発信者となり地域の方々の活動を巻き込み、共に活動することにより、大人も子供も互いに育ちあう環境と人とのかかわりを大切にした地域づくりを目指して活動を展開しています。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

子どもたちを中心に、地域の方を巻き込んだ体験活動等を通し、子どもの自然や地域を愛する心を育むとともに、大人も子どもも互いに育ちあう環境と、人と人との関わりを大切にした地域づくりに取り組みました。

具体的には、チャレンジキッズ事業として子どもたちを対象とした自然体験活動を年間通じて開催したほか、ただゴミを拾うだけではなく、遊びや楽しみを取り入れた清掃活動であるゴミデーハイキング等を実施しました。

■ 現在の活動及び課題

現在に至るまで継続して地域の方々の巻き込んだ子どもたちの体験活動を年間通じて開催しています。

また、地域の空き家を活動拠点に、放課後の児童の見守り活動を行い、また高齢者にボランティアとして参加していただくことで高齢者の居場所を提供し、異世代の交流ができる場を設けています。

さらに、現在は高齢者が中心となって食堂を運営し、生きがい、やりがいを生み出すとともに、自ら交流する機会を創出しています。

現在の課題としては、代替りしていくコミュニティ組織との連携や、新たな地域資源の発掘と近隣地域への活動の拡大です。

■ 今後の団体の活動の展望

地域コミュニティという大きな組織の中に、自主性と目的をもった新たな小さなコミュニティを創出し、地域の暮らしの安心を守る「心の大きな拠り所」となる活動の拠点づくりを目指しております。これからも未来を担う子どもたちの健全育成と地域との繋がりを深めるための活動を継続していきたいと思っております。



【「火おこし名人に習え！」

おばあちゃんは火おこしの名人！】



【高齢者が運営する食堂「ふれあい処いぶき」

味の決め手は思いやり！】

〒999-8232

酒田市市条字村ノ前 48-1

理事長 星川 龍一

TEL：080-638-6541

E-mail:npo.ibuki@amail.plala.or.jp

《平成24年度グランプリ受賞団体》

ボランティアサークル日曜奉仕団（寒河江市）

被災地復興支援活動及び避難者支援活動

（活動期間：平成23年4月～）

■ 活動の背景・目的

古今未曾有の大災害となった東日本大震災、初めて訪れた災害現場は異臭と土ぼこりにまみれ、被災地は悲しみと不安に包まれていました。「私たちは何をしなければならないのだろう？お金は無い、時間も無い、でもやる気だけはあ有る・・・」そんな想いから、被災地でのガレキ撤去などの活動をスタートさせました。そして、寒河江市に避難された方々が、知らない土地でも安心して生活できるように支援活動を同時進行させるに至りました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

宮城県石巻市、福島県只見川水害でのガレキ撤去作業を実施し、また岩手県陸前高田市へボランティアバスを運行し、ガレキ・泥の撤去、草刈りや畑作りなどの復興支援を行いました。また、ボランティアに参加出来ない方を対象に「被災地復興応援ツアー」という観光ツアーを開催しました。さらに、寒河江市内へ避難された方を対象にお茶会などのコミュニティ作りのお手伝いを行いました。

■ 現在の活動及び課題

陸前高田市へのボランティアバスは、のべ1,000名ものボランティアを被災地へ送り、平成26年12月まで継続した後、ニーズの減少と共に終了致しました。

現在、日曜奉仕団はNPO法人やまがた絆の架け橋ネットワークとして避難者の交流事業や帰還・定住支援などの活動を継続しております。

また、被災地での活動経験を活かし、茨城県常総市の水害や熊本地震の支援活動にも従事、新たな経験を得ることで山形県内の地域防災に貢献すべく活動を行っております。

■ 今後の活動の展望

山形県は比較的自然災害の少ない県と言われていますが、一方で災害が発生した場合の備えに遅れがあるようにも思えます。いざという時に被害が最小限にとどまるよう防災・減災活動を推進していきます。

また、東日本大震災の県内避難者は年々減少しているものの、継続して県内に定住を希望する方も多く、帰還する方、定住する方、それぞれのライフワークに応じた支援を継続し、やがては福島との地域間交流を活性化していきたいと考えております。



【側溝の泥出しの様子】



【避難者・帰還者さくらんぼ交流会】

〒991-8501

寒河江市大字西根字石川西 355

村山総合支庁西庁舎附属棟

代表 早坂 信一

TEL : 0237-85-1080 FAX : 0237-85-1071

（現在は「NPO法人やまがた絆の架け橋ネットワーク」として活動中）

《平成25年度グランプリ受賞団体》

認定NPO法人ひらた里山の会（酒田市）

酒田の孟宗竹 / カキ棚支援プロジェクト

（活動期間：平成23年7月～）

■ 活動の背景・目的

定期的に実施されてきた里山保全活動に支障がでており、竹林や杉林をはじめ、景勝地までも里山の機能を損ねている現状を改善することを目的とし、活動を開始しました。整備の際に発生する間伐竹はカキ棚材として、残材は竹炭に変え燃料や土壌改良材に、木材は燃料やチップ敷の遊歩道に利用することで里山資源の利活用による中山間地の活性化を図っています。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

松島町のカキ棚材が津波で流失し、原発事故の影響により福島から搬出できず不足していたことから、平成24年12月に孟宗竹を500本、翌年3月下旬に250本を大型トラックで届けています。荒廃竹林を整備するとともに地元でできる復興支援ということで、小中学校や多くの市民ボランティアが竹間伐や枝払いに参加してくれました。

■ 現在の活動及び課題

景観阻害を改善する里山保全活動、子どもを対象にした自然体験学習及び里山でのトレッキングなどの各種イベントを中心に毎年4月中旬から11月下旬まで活動しております。

理事会は毎月1回開催し、事業の調整を行っています。会報の「さとやま通信」は年4回発行し、関係団体にもメールで配信し情報を提供しています。会員交流会は年3回開催し、会員同士の交流が活発になるようにしています。現在会員数は個人128名、法人6社です。

若い会員加入と専従事務局職員を雇用できる法人の体質強化が最大の課題です。

■ 今後の団体の活動の展望

衰退する中山間地の支援は多岐にわたり、減少する傾向にありません。行政とNPOによる中山間地の支援活動の役割を見直さなければ、NPOの公益活動は、減少していくか継続できない状況になります。

成長拡大から循環継続へと変化する時代に中山間地域の役割は重要だと考えます。

これからも自然豊かな景観形成を保全する作業と、未来を担う子供たちに自然の大切さや素晴らしさを体験できる事業を実施してまいります。



【子どもたちとの自然観察会】



【松島のカキ棚材へ「よいっしょ！」】

〒999-9701

酒田市砂越字上川原 459-2

代表 佐藤 忠智

E-mail : tadatomo@maroon.plala.or.jp

<https://www.facebook.com/hiratasato>

事務局 携帯 : 080-2833-1320

月・金 10:00~15:00 水 13:00~17:00

E-mail : nposatoyama@amail.plala.or.jp

《平成26年度グランプリ受賞団体》

グループ農夫の会（山形市）

山形県山辺町「大蕨棚田」の元気再生
（活動期間：平成23年3月～）

■ 活動の背景・目的

大蕨棚田は日本棚田百選にも認定された地域の誇る貴重な文化と環境の財産です。しかし、ここ数年農業従事者の高齢化や後継者不足等により耕作放棄地が増加し、棚田の存続が危惧されていました。この大蕨の棚田の元気再生を目的に平成23年3月より活動をはじめました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

平成23年に地元生産者の「中地区有志の会」とボランティア団体の「グループ農夫の会」を立ち上げ、地域密着を理念とするサッカーJリーグ「モンテディオ山形」とともに「モンテと一緒に棚田米をつくり隊」として、楽しみながら棚田の元気再生に取り組みました。

■ 現在の活動及び課題

大蕨棚田を象徴する原風景である稲の杭掛けにより自然乾燥した棚田米を、「モンテ棚田米」「大蕨棚田米」の商品名で販売して、その売上げを原資に再生事業を展開しています。

また、地域活性化のため、田植え、稲刈り、脱穀取入れ、雪中棚田サッカー等のイベントを開催し、地域外との交流人口の拡大をはかっています。

■ 今後の活動の展望

楽しくをモットーに、モンテディオ山形との協働による米づくりや、棚田を舞台とした「棚田でダンスと音楽」を継続して開催します。また、菜の花、彼岸花を植えて景観づくりを図っていくなどの活動により、魅力的な大蕨棚田をめざしています。

〒990-2464
山形市高堂一丁 8-35
代表 稲村 和之
TEL：023-643-8800
HP アドレス：<http://www.group-nofunokai.jp/>



【モンテと一緒に棚田米をつくり隊】



【大蕨棚田元気再生のフローチャート】

《平成27年度グランプリ受賞団体》

山形県立上山明新館高等学校 農業クラブ（上山市）

桑から広がる農地復興プロジェクト

（活動期間：平成25年3月～）

■ 活動の背景・目的

この活動は、東日本大震災で大きな被害を受けた被災地を、桑の活用を通して復興の手助けをしたいとの考えから始まりました。桑は塩害に強く、波をかぶった土地でも育ち、また乾燥や病害虫に強いという環境耐性能力を持つことに着目し、震災後に変わり果ててしまった農地の環境保全に貢献していくことを目的に研究を進めてきました。

■ やまがた公益大賞グランプリを獲得した活動の内容

桑の耐塩性を証明し名取市への植栽を普及し環境保全の輪を広げるとともに、桑の葉の有効活用を図り、持続可能な農地を再生することを目標に掲げ、上山市と姉妹都市の関係にある宮城県名取市の方々と協力して活動してきました。

また、栽培方法と桑葉の有効活用について検討し、挿し木により活着率（苗や挿し木が土に根付く確率）を上げる方法を研究し、桑の葉ドーナツを開発、販売するなどして、環境保全としての桑と、食品素材としての桑の葉を普及することができました。

■ 現在の活動及び課題

桑は塩害にも強く、過酷な環境においても生育できることが分かりました。また、その葉をパウダーにすることで、多様な加工方法に適応できるようになりました。しかし、土地を「再び耕す」と考えたとき、数年で人の背丈を越す程まで成長し、土中に太く根を張る桑の木は、現場において最適とは考えられません。現在は、より除塩効果が高く、農地として使用する際に多くの労力を必要としない農業資源はないものか模索しています。

■ 今後の活動の展望

これまでの活動を通して、農業資源の多様性に改めて気付くことができました。桑の除塩効果を証明することや桑の葉を食用として用いるなど、普及活動にも力をいれることで、農業を活気づけ、地域を元気にすることができたと思います。今後は、桑以外の農業資源にも広く目を向け、高校生の視点だからこそできる活動を目指します。豊かな大地を守ることは、21世紀を生きていく私たちの使命であるという意識を常に持ち、これからも活動に励んでいきます。



【挿し木の様子】



【宮城県農業高校のみなさんと定植作業】

〒999-3193

山形県上山市仙石 650 番地

校長 寒河江 茂

TEL : 023-672-1700

《平成28年度グランプリ受賞団体》

あいらぶ末広 楽市楽茶（山形市）

あいらぶ末広 楽市楽茶

（活動期間：平成27年7月～）

■ 活動の背景・目的

東日本大震災後、防災意識が高まりつつある今、災害時は勿論、日頃から隣町の方でも顔を見知っていて手助けができるまちづくりをめざすとともに、お年寄りや障害を持つ方、子供、若者、そうした方々を支える大人たちなど、近所に住む皆が何より安心して気軽に交流できる場を作りたい。そんな願いで「顔が見える町」を合言葉に、平成27年から町内会長を中心として活動を始めました。

■ やまがた公益大賞グランプリを受賞した活動の内容

末広集会所を中心に、常設の青空市場ではNPO法人の「山形自立支援創造事業舎（みちのく屋台こんにやく道場）」や「ぶどうの家」提供によるこんにやくの振舞いと、クッキーや野菜類等を販売しております。また、認知症予防体操、フリーマーケット、歌とギター演奏を聴く会、手品、末広町の昔を語る会、漢字の成り立ちのお話、野菜いっぱいの豚汁作りを行っているほか、山形西高等学校による運動部の部活体験、文化部の展示や活動内容の紹介などの企画を行いました。

■ 現在の活動及び課題

平成27年、28年は年4回ずつ集会所で活動を行いました。参加者からは、障害者の方と初めて話が出来たとの声も寄せられています。平成28年からは、隣町の山形西高等学校生徒会の皆さんにも参加していただき、組織の雰囲気や活動の規模が大きく変わり、また参加した西高の仲間の意識にも変化が生じたという声もありました。

今のところ、高齢者の参加が多いので、今後若い世代の参加を促しつつこの活動を続けることで、こうした交流を更に広めていくことが大切だと考えています。

■ 今後の活動の展望

この活動は短期間で結果が出せる性質のものではなく、息の長い取り組みとして今後も継続していかねばならない事業です。その為には町内会の有志及び協力者がその都度、新たな生き生きとした工夫を出し合うと同時に、次世代の後継者を育ててバトンをつなぐという意識と心配りを持続する必要があります。



【介護予防体操（いきいき百歳体操）の風景】



【皆で作った豚汁を食べながら歓談する風景】

〒 990-2321

山形市桜田西 4-1-14

（事務局：地域包括支援センターふれあい 椎名 敏）

代表 津野尾 巖

TEL：023-628-3988